
BLEACH ~母親を失った少女~

桂 ヒナギク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BLEACH～母親を失った少女～

【Zコード】

N8700Y

【作者名】

桂 ヒナギク

【あらすじ】

母親を虚ホロウに殺された少女、白崎 茜は死神となり虚退治ホロウをすることに。

空座町の一角。

一人の少女、白崎茜が虚に追いかけられていた。

(何なの、この化け物！？)

茜は全速力で走り、虚を撒いた。

「はあ……はあ……、何だったのかしら？」

茜は背後を確認すると、「もう追つてこないわね」と囁いて帰路に就いた。

家に帰り着き、中に入る茜。

「ただいまー！」

しーんとしている。

「お母さん！ 居ないの！？」

靴を脱いでリビングへ移動する茜。

そこには倒れている母と死霸装という黒い着物を纏い、斬魄刀を持つたアフロの男、車谷善之助の姿があった。

「もう手遅れだな……」

「何が手遅れだ！？」

茜は車谷を蹴り飛ばした。

「どわ！？」

壁に顔面からぶつかる車谷。

「お主、私が見えるのか？」

「見えなきや蹴らないわよ！ で、この状況は何！？」

「どうやらお主の母親は虚に殺られたみたいだな」

「ほりうつ…」

「悪霊のことだ」

「そ……そんな、お母さんが悪霊に殺されるなんてー！」

茜はその場に崩れ、泣き出した。

「お嬢さん、敵を討ちたいか？」

「討てるの？」

「お主が死神になればな」

「しにがみ？」

「死神とは、ソウル・ソサエティ靈界・プラス戶魂界内にある護廷十三隊という組織に所属しており、迷いし靈・整を、ホロウ戶魂界に送つたり、現世を荒らす惡靈・ホロウ虛から現世を護り、ホロウ戶魂界と現世にある魂魄の量を均等に保つことが役目の調整者のことだ」

「へえ、それで、どうすれば死神になれるの？」

「うむ、その前にだ」

「????」

車谷は茜を突き飛ばした。

その直後、壁が壊れ、先程茜を襲っていた虛が現れた。

「ピギヤー！」

虚は車谷を殴り飛ばした。

「ぐはっ！」

虚が破壊した壁とは逆側の壁に激突する車谷。

「アフロー！」

茜は車谷に駆け寄つた。

「今の攻撃でかなりのダメージを受けたみたいだ」

車谷はおぼつかな覚束無い足取りで立ち上がる。

「どうやら立つのだけで精一杯だな。後はお主に任せらるしかないみたいだ」

車谷は斬魄刀の刃先を茜の腹部に突き刺した。

その瞬間、茜が背中に大刀を背負つた死霸装の姿に変わる。

「ちよつ……何？ 格好が変わつたわよ？」

「そんなことはいいから虚を！」

茜は虚の仮面に巨大な斬魄刀を突き刺した。

虚は悲鳴をあげて消滅した。

「で、どうすれば戻れるの？」

白崎家、茜の部屋。

「お母さん！」

そう叫ぶと同時に目を覚まして起き上がる茜。
体を改めると、寝間着姿になっていた。

（元に戻つてゐる）

茜はベッドから降りると空座第一高校の制服に着替えた。

「さてと、」飯、「」飯

茜は部屋を出て、階段を降りて一回へ行き、キッチンに入つて朝食の仕度を済ませ、食卓で食事を始めた。

ガチャ、とドアが開いて中年男性が入つてくれる。

彼は白崎新一。茜の父親である。

「おはよー、お父さん」

「ああ、おはよー」

「お、今日も美味そうだな。てか、一人分多くないか？」

「あー、お母さんの分も作っちゃった！ もう居ないのにね……」

「突然死なんて……父ちゃん寂しい」

「御馳走様」

食事を終えた茜は鞄を手に玄関へ向かつた。

「行つてきまーす！」

ドアを開け、外に出て学校へ向かう茜。

途中、茜は車谷に会つた。

「アフロ」

「アフロではない。車谷善之助だ」

「で、何の用？」

「今から来て欲しい所がある」

「来て欲しい所？」

「こつちだ」

車谷は茜を浦原商店へ案内した。

「浦原商店？」

「いらっしゃいませえ！」

下駄に帽子の男、浦原 喜助が現れた。

「紹介しよう。浦原商店の店長で浦原 喜助さんだ」

「初めてまして、白崎 茜です」

茜はそう言ってお辞儀をした。

「貴方、死神ですね」

「何言つてるんですか、人間ですよ」

「貴方の魂魄が死神化しているんですよ」

喜助はそう言つて手にしている杖で茜の額を突いた。その瞬間、死霸装姿の茜の魂魄が肉体から飛び出した。倒れる茜の肉体。

「何？ 私、体外離脱しちゃつた？」

茜は肉体を揺さぶつた。

「大丈夫か、私？ てか、どうすれば戻れんの？」

「肉体に重なれば元に戻れますよ」

茜は肉体に重なり、靈体がその中に入つた。

立ち上がる茜。

「あ、戻つた」

「白崎さんにはこれを渡しておきましょう」

喜助はそう言つて懷から代行証を取り出し、茜に渡した。

「これは？」

「代行証です。虚ホロウが現れて死神化する時にこの代行証を体に当てる

下さい。肉体から魂魄が飛び出します」

「なんだかよく分からぬけど、ありがとうござります」

茜はお辞儀をすると、「それでは」と、浦原商店を後にした。

空座第一高校の校門を駆け抜けた茜。

「遅くなっちゃったわ」

昇降口に入り、下駄箱で上履きに履き替えて一年A組へ。教室へ入ると同時にチャイムが鳴る。

「セーフ！」

茜は席に着いた。

代行証が「ホロウ」と鳴る。

（何かしら？）

茜は代行証を取り出した。

（ホロウって聞こえるけど、^{ホロウ}虚が出たのかしら？）

その時、車谷が現れた。

「茜、^{ホロウ}虚だ」

「どこに出たの？」

「場所はこの学校の屋上だ。死神化するんだ」

茜は代行証を体に当て、死神化して屋上へ向かい、^{ホロウ}虚と対峙した。

「やあ！」

^{ホロウ}虚を巨大な斬魄刀で切りつける茜。

「頭に刀を突き刺すんだ！」

茜は車谷の^{ホロウ}言葉に応えて斬魄刀を虚の頭に突き刺した。

一撃必殺。^{ホロウ}虚は消滅した。

「初心者にしてはなかなかやるじゃないか」

「剣道やつてるから」

茜は教室に戻った。すると……。

「私の体がない！？」

「どうやら勝手にどこか行つてしまつたみたいだな」

「勝手にって何で！？」

「義魂丸を飲ませたんだ」

「ぎこんがん？」

「丸薬の形状をしていて肉体に入つた時のみ擬似人格を持つ魂魄として作用する特殊な道具のことだ」

「そんなことより体を搜さなきや！」

茜は教室を飛び出した。

「どこ行つたのよ、全く」

茜は学校中を捜し回つたが、体を見つけることは出来なかつた。

「どこにも居ないわ」

「ひょつとすると、学校の外じやないか？」

茜は学校を出た。

そこへ現れる虚。

「才前、死神ダナ。食ワセロ」

茜に襲いかかる虚。

「あんたの相手をしてる暇は無いのよ！」

茜は飛び上がり、虚を真つ二つに切り裂き消滅させた。

「私の体ー！」

茜は着地と同時に走り出す。

「あ、居た！」

茜は屋根から屋根へ飛び移る肉体を見つけた。

「ふつ！」

茜は建物の屋根にジャンプで上り、肉体の後を追つ。

「ちよつと待てー！」

振り返る肉体。

「なつ！」

逃げる肉体。それを追つ茜。

「何で逃げるのー？」

「やつと手に入れた自由なんだ。捕まつてたまるかー！」

「待ちなさい！」

茜は全速力で走つて追い付き、肉体を捕まえると代行証を使って

義魂丸を取り出した。

「手間かけさせて……」「

そこへ駆けつける車谷。

「義魂丸は?」

茜は車谷に丸薬を渡した。

「これは改造魂魄!?」

「『魂界で作られた尖兵計画の一環として作られた対虚用の戦闘用義魂丸だ。これは早急に処理せねば』

「待つて」

茜は車谷から義魂丸を奪取した。

「それは!」

「これ、私にちょうどいい?」

「いや、しかし……」

「廃棄はさせないよ」

その時、茜は義魂丸から「ありがとう」と聞こえた気がした。
「アフロ、これは貰つておくね」

茜は自分の肉体に入り、義魂丸を懷にしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8700y/>

BLEACH～母親を失った少女～

2011年11月27日17時55分発行